6 // 商品マスタのデータを取得 let sheet = SpreadsheetApp.getActiveSpreadsheet().getSheetByName('商品マスタ'); let values = sheet.getRange(2, 1, sheet.getLastRow()-1).getValues(); 9+ **10 + // 1**番目のアイテムの選択肢を商品マスタで更新 11 + item.asListItem().setChoiceValues(values); 12 } スクリプトを保存後、「実行」ボタンでスクリプトを実行すると、商品購入フォーム上1番目のアイテムの選択肢が、商品 マスタの商品名で設定されます。 商品購入フォーム フォームの説明 □ プルダウン 何を購入しますか? 1. 商品A × 2. 商品B × 3. 商品C × 4. 商品D × 5. 商品E × 6. 選択肢を追加 以上で作業は完了です。今回のスクリプトにさらにトリガー機能を設定すると、定期的に商品購入フォームの選択肢を自 動反映することもできます。 例えば商品マスタが不定期に変更される場合、商品購入フォームの選択肢を都度更新するのは手間ですし、更新漏れが発 生する可能性もあります。トリガー機能を設定しておけば、自動反映されて更新漏れが防げるようになります。 ぜひトリガー機能も使いこなせるようになりましょう。復習したい場合は6章を参照してください。 本章の学習は以上です。お疲れさまでした。 まとめ 本章では以下の内容を学びました。 フォームに対する自動操作ができること スプレッドシートに続き、フォームの基礎知識も身につけられました。スクリプトの書き方に共通点があるため、意外と 簡単に学習できたかと思います。 次章では、Gmailに対する操作の自動化について解説します。この調子で頑張りましょう。 理解度を選択して次に進みましょう ボタンを押していただくと次の章に進むことができます 前に戻る 9/13ページ 次に進む く一覧に戻る ■ 改善点のご指摘、誤字脱字、その他ご要望はこちらからご連絡ください。 © SAMURALInc. 利用規約 プライバシーポリシー 運営会社

SAMURAI TERAKOYA

① タイムライン

☆ ホーム

田 教材

☑ 課題

Q Q&A

⊘ 学習ログ

**の** レッスン

よくある質問

リリースノート

教材

Q 検索

○30分 一 □ 未読

8.1 本課題の目標

本章では以下を目標に学習します。

する自動化の事例について解説します。

8.2 完成形を確認しよう

本章で作成する成果物の完成形を確認しましょう。

フォームに対する操作の自動化方法を学びます。

フォームに対する操作の自動化方法を理解すること

ホーム > 教材 > Google App Scriptで業務自動化プログラムを作ろう > Googleフォームの選択肢を自動反映しよう

8章 Googleフォームの選択肢を自動反映しよ

前章では、フォームを操作するための基本的なスクリプトについて解説しました。本章では応用編として、フォームに対

ここでは、スプレッドシートとフォームを組み合わせた自動化を実現します。スプレッドシートで管理されている商品マ

☆ 団 ②

100

200

300

400

500

(共有なし) アカウントを切り替える

C

D

0

スタの商品一覧を、商品購入フォームの選択肢に自動反映します。(※マスタ:データ処理の基礎となる基本情報)

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式

単価

商品マスタ ▼ ( )

これまで解説した関数については省略します。わからなくなった場合は、これまでの章を確認してください。

アイテムをプルダウン形式のアイテムとして取得する

asListItem()関数は、アイテムをプルダウン形式のアイテムとして取得する関数です。 使用方法は次のとおりです。

プルダウン形式のアイテムとして取得し、次に紹介する setChoiceValues() と組み合わせて使用します。

アイテムの選択肢を設定する

フォームからアイテムを取得し、取得したアイテムに対して使用します。

2 let form = FormApp.openById('123456789abcde');

7 // アイテムをプルダウン形式のアイテムとして取得

setChoiceValues()関数は、アイテムの選択肢を設定する関数です。

使用方法は、次のとおりです。取得したアイテムに対して使用します。

2 let form = FormApp.openById('123456789abcde');

8 let values = ['選択肢1', '選択肢2', '選択肢3'];

8.4 必要なファイルを準備しよう

├─ 商品(スプレッドシート) └─ 商品購入フォーム(フォーム)

商品スプレッドシートを作成しよう

В

+ ■ 商品マスタ • ( )

ここでは、上記のように商品マスタを作成しました。

商品購入フォームを作成しよう

次に、以下に必要なフォームの中身を作成します。

回答形式

プルダウン

均等目盛

記述式

記述式

入力が完了すると、以下のようなフォームができあがります。

商品購入フォーム

フォームの説明

1. 選択肢1

2. 選択肢を追加

何個購入しますか? \*

記述式テキスト (短文回答)

記述式テキスト (短文回答)

8.5 スクリプトを書こう

「Apps Script」を選択して、スクリプトエディタを開いてください。

このゴールに到達するための、大まかな手順は以下のとおりです。

3. アイテムの選択肢を商品マスタから取得したデータで更新

(1) フォームを取得し、1番目のアイテムを取得

して getItems()[0] とすることで、1番目のアイテムを取得できます。

3 + let form = FormApp.openById('123456789abcdefg');

(2) 商品マスタから商品名の一覧を取得

次に、「商品マスタ」シートから商品名の一覧を取得します。

В

100

200

300

400

500

単価

商品マスタ ▼ ( )

2 // フォームを取得し、1番目のアイテムを取得

3 let form = FormApp.openById('123456789abcdefg');

1 function updateChoiceValue() {

4 let item = form.getItems()[0];

ムの選択肢を設定します。

1 function updateChoiceValue() {

2 // フォームを取得し、1番目のアイテムを取得

let item = form.getItems()[0];

3 let form = FormApp.openById('123456789abcdefg');

1. フォームを取得し、1番目のアイテムを取得

2. 商品マスタから商品名の一覧を取得

それでは順番に説明していきます。

1 + function updateChoiceValue() {

4 + let item = form.getItems()[0];

sheet.getLastRow()-1) とします。

1 商品名 2 商品A

商品B

商品C商品D

商品E

4

9

5+

9 }

5+}

名前\*

住所\*

何を購入しますか?

スプレッドシートを新規作成します。ファイル名は「商品」とします。

100

200

300

400

500

Googleフォームを新規作成します。ファイル名は「商品購入フォーム」とします。

選択肢

選択肢1

1 2 3 4 5

0 0 0 0 0

先ほど作成した「商品」スプレッドシートから、コンテナバインドスクリプトを作成します。「拡張機能」メニューから

今回のゴールを再確認すると、「商品マスタの内容で、フォームの選択肢を自動反映する」ことです。

関数を新規追加します。関数名は何でも構いませんが、ここでは「updateChoiceValue」とします。

getItems() 関数で、全質問が配列で取得されます。1番目のアイテムはインデックス0なので、フォームオブジェクトに対

まずはID指定でフォームを取得し、1番目のアイテム「何を購入しますか?」を取得します。

openById() 関数の引数であるIDの部分は、実際のフォームのIDに書き換えてください。

ここでは、以下画像赤枠のデータ(2行1列目から最後の行まで)を取得したいので、 getRange(2, 1,

7 + let sheet = SpreadsheetApp.getActiveSpreadsheet().getSheetByName('商品マスタ');

8 + let values = sheet.getRange(2, 1, sheet.getLastRow()-1).getValues();

(3) アイテムの選択肢を商品マスタから取得したデータで更新

asListItem() 関数で、アイテムをプルダウン形式のアイテムとして取得します。さらに setChoiceValues() 関数で、アイテ

最後に、1番目のアイテムの選択肢を商品マスタから取得したデータで更新します。

4 1

Q.

データを取得するには、取得したrangeオブジェクトに対して getValues() を実行します。

1~5

ファイル内で「商品マスタ」シートを作成します。商品マスタでは、商品名と単価を管理します。

D

② プルダウン

それでは、作り方を順番に説明します。

11 // setChoiceValues(values)で選択肢を設定 12 item.asListItem().setChoiceValues(values);

10 // asListItem()でアイテムをブルダウン形式のアイテムとして取得し、

この場合、1番目のアイテムのプルダウンの選択肢が、「選択肢1」、「選択肢2」、「選択肢3」になります。

「Form実践」フォルダを新規作成して、必要なファイルを入れます。本章では最終的に以下のようなフォルダ構成になる

商品購入フォーム

► ~ = 125% ▼ ¥ % .0 .00 123 ~ ···

В

本章で解説する手法を理解すれば、フォームに対するさまざまな自動化に応用できます。

商品マスタ

- fx

商品名

商品A

商品B 商品C

商品D

商品E

2

3

6

9

\*必須

○ 商品A

商品B

○ 商品C

商品D

○商品E

8.3 作成に必要な関数を確認しよう

本章の成果物作成に必要な関数を解説します。

用途

関数名

asListItem()

setChoiceValues()

asListItem()

スクリプトファイル(見本)

4 // 1番目のアイテム(質問)を取得 5 let item = form.getItems()[0];

1 // フォームを取得

8 item.asListItem();

setChoiceValues()

スクリプトファイル(見本)

4 // 1番目のアイテム(質問)を取得 5 let item = form.getItems()[0];

1 // フォームを取得

7 // 選択肢のデータ

予定です。

2 GAS

1 <フォルダ構成>

1 商品名 2 商品A

3 商品B

4 商品C

5 商品D

6 商品E

7 8 9

質問

名前

住所

何を購入しますか?

何個購入しますか?

3 └─ Form実践(フォルダ)

※アイテム:フォーム内の質問

何を購入しますか?\*

反映

1 GAS (Google App Script) の概

2 スクリプトエディタとダッシュボ

ードの使い方を理解しよう

4 スプレッドシートを操作しよう

5 スプレッドシートを操作しよう #2 Sheetクラス・Rangeクラス

6 店舗別の売上金額をスプレッドシ

ートで自動集計しよう

#1 SpreadsheetAppクラス・

3 GASの制限事項を理解しよう

Spreadsheetクラス

要を理解しよう

本文 目次 質問一覧 0件

う